

数学科学習指導案（略案）

平成21年2月6日（金） 2校時
 中学部 数学Aグループ
 男子3名 女子1名 計4名
 場所 中学部3年 教室
 指導者 黒木里香(CT) 亀田 純(ST)

1 題材 「かぞえてみよう」

2 本時の学習（17/22）

(1) 全体目標

- ドットカードやさいころの目の数を見て数を数え、同じ数のカードを選んだり、同じ数だけコマを動かしたりすることができる。
- 袋に書いてある数字と同じ数のおはじきを袋に入れたり、同じ色のシールを選んで線やゴムで結んだりすることができる。（個別の課題）

(2) 個人目標

生徒	個人目標
K. A (1年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドットカードやさいころの目の数を見て、数を数えて発表したり、数字カードを選んだりすることができる。 ・ 袋に書いてある数字を見て、同じ数のおはじきを入れることができる。
M. K (3年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドットカードやさいころの目の数を見て、指文字で表したり、数字カードを選んだりすることができる。 ・ 袋に書かれている数字を見て、同じ数のおはじきを入れることができる。
M. Y (3年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドットカードやさいころの目の数を見て、教師と一緒に数えて発表したり、同じ数のドットカードを選んだりすることができる。 ・ 同じ色のシールを見つけて、点と点を線で結ぶことができる。
H. R (3年, 女)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドットカードやさいころの目の数を見て、教師と一緒に数えたり、同じ数のドットカードを選んだりすることができる。 ・ 3色のシールを見て、同じ色のシールを選び、点と点をゴムで結ぶことができる。

(3) 指導及び支援に当たって

本グループは、これまでに1から5までの具体物の数を数えたり、丸や三角、四角の形の弁別を中心に行ってきた。そこで、本時では作業的・体験的な活動として「すごろく」を設定し、これまでの学習を生かして、できる限り自分一人でさいころの目を見て数を数えたり、同じ数だけコマを動かしたりできるように、教材・教具や教師の働き掛けを工夫する。

必然性を高めるために

ドットカードやさいころなど、前時の学習で使った教材・教具を一つずつ提示することで、活動を想起できるようにする。また、音の出るドットカードを使って数を数えたり、さいころを投げたりして、活動に対する意欲を高める。

思考・操作を十分に行うために

「すごろく」の活動において、①順番を決める、②さいころを投げて●の数を数える、③コマを動かす、の手順表を手掛かりに、自分の学習内容を意識できるようにする。また、すごろくの活動の中に設定する生徒一人一人に合わせた学習課題は、生徒自身が理解できている学習課題に加えて、ステップアップした新しい学習課題にも取り組めるように、活動量に配慮しながら、段階を踏まえた作業的・体験的な活動を取り入れた教材を準備する。

学習を振り返るために

学習を振り返る際に、生徒がどのような学習をしたのかを発表する場を作る。その際、教師が投げたさいころの目の数を数えて発表したり、個別に取り組んだ課題ができたかどうかを確認したりして、「できた。」という達成感がもてるようにする。

実践意欲を高めるために

ドットカードの数を正しく数えることができたときに、友達や教師の前で称賛し、充実感を味わうことができるようにする。そして、次の学習課題（さいころの目の数を数える）に挑戦し、「すごろく」の活動にスムーズに取り組めるようにする。

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援の手立て	資料・準備
導入 (5分)	1 はじまりのあいさつをする。 2 本時の学習内容を知る。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 本時の活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">●の数だけこまを動かそう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ドットカードやさいころを手掛かりに前時の学習内容を振り返り、本時の学習に見通しをもって活動ができるようにする。 	ドットカード さいころ
展開 (30分)	3 ●の数を数える。 (1) ドットカードを見て、●の数を数えたり、数字カードを選んだりする。 (2) さいころの目の数を見て●の数を数えて発表をしたり、同じ数のカードを選んだりする。 4 さいころの目の数だけこまを動かす。(すごろく) (1) 順番を決める。 (2) さいころを投げて、さいころの目の数を数える。 (3) さいころの目の数と同じ数だけこまを動かす。 (4) 個別の課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> M. Kは、自分で選んだドットカードの●を指差しで数え、指文字で正しく表すことができるように、大きなドットカードを使う。 順番札を引き、札の数字を手掛かりにして、黒板の順番表に自分のカードを張り付けることができるようにする。 さいころの側面を段ボール枠で隠すことで、投げたさいころの上面の●を正しく数えることができるようにする。 M. YとH. Rは、さいころの●の数と同じ数のドットカードを手掛かりにすることで、こまを動かすことができるようにする。 K. AとM. Kは、袋に書いてある数字を手掛かりにして、同じ数のおはじきを入れることができるようにする。 M. Yは、提示した色のシールと同じ色のシールを見つけて、線と線で結べるように、提示するシールのを1色とする。 H. Rは、提示された3色のシールを見て、同じ色のシールを選び、点と点をゴムで結ぶことができるように、課題が明確になるような教材の提示の仕方を工夫する。 	ドットカード (大・小) 数字カード さいころ 順番札 写真カード 段ボール枠 こま ドットカード 個別の課題
終末 (5分)	5 学習を振り返る。 (1) 自分が学習したことを発表する。 (2) 次時の学習内容を聞く。 6 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> さいころや個別の課題を手掛かりに発表し、できたことや頑張ったことを称賛することで、次時の学習につなげるようにする。 	さいころ 個別の課題

※ CT: チーフティーチャー ST: サブティーチャー

(5) 評価

- ドットカードやさいころの目の数を見て数を数え、同じ数のカードを選んだり、同じ数だけこまを動かしたりすることができたか。
- 袋に書いてある数字と同じ数のおはじきを袋に入れたり、同じ色のシールを選んで線やゴムで結んだりすることができたか。(個別の課題)